

秘密保護法案

国民の日・耳・口をふさぐネライは「戦争できる国」—— 世論の力で必ず廃案に！

国会論戦をリード
日本共産党

オスプレイ、原発…

政府の秘密主義を追及

衆院 赤嶺質問16回 問題点が次々明らかに

国の秘密体質さらに

「政府がやるべきは情報を公開し、国民に隠してきた事実を明らかにすることだ」。日本共産党の赤嶺政賢議員は、沖縄の普天間基地にオスプレイを配備することが米軍の計画や司令官発言で何度も明らかになったにもかかわらず、日本政府が一切、認めてこなかったことを指摘。「このうえ秘密保護法で秘密体制を強化するなどとてもない」と厳しく批判しました。

災害対策より「秘密保護」

東日本大震災直後、福島原発事故の日本の情報収集衛星画像を「秘密保全」を理由に公表せず、民間企業の衛星画像55枚を約4800万円で購入して東電に提供したことが判明。赤嶺議員は、「事故の拡大防止と住民避難のためにあらゆる情報が必要な時に、画像は『秘密』にされて使えなかった」と指摘し、秘密保護法の制定に強く反対しました。

「巨大な行政権力に迫ってこそ国会議員」「国民代表の責務果たせ」

参院 議場圧した仁比質問

議場では他党議員も拍手



質問する仁比議員=27日、参院本会議

「警鐘を鳴らしたい」「あと1週間しかない今国会で強行しようなど、『国権の最高機関』たる国会の自殺行為ではないか」。11月27日の参院本会議で質問にたった日本共産党の仁比聡平議員は、衆院での秘密保護法案強行採決に「憲法の基本原理を踏みにじる希代の悪法」「満身の怒りをもって抗議する」と安倍首相に迫り、廃案をよびかけました。



「秘密保護法案」に対する日本共産党の仁比聡平参院議員の本会議質問が反響を呼んでいます。

こんな悪法が通ったらタイヘン



秘密の範囲が広範で曖昧

危険1 「秘密」の範囲が広範かつ曖昧で、「何が秘密かも秘密」とされます。秘密が政府の判断で何度でも更新でき、「修正」合意で60年に延長されるなど、法案はさらにヒドイものに。

国民の日常と自由を威嚇

危険2 懲役10年の重罰と威嚇が「広く国民の日常と自由」を脅かします。首相は「捜査機関において個別具体的な事実に基づいて判断すべき事柄」として、逮捕・勾留のうえでの取り調べ、捜索・差し押さえの実施、刑事被告人としての起訴まであり得ることを認めました。

「適性評価」で広く国民監視

危険3 秘密を取り扱う者への「適性評価」で、広く国民監視の仕組みがつけられます。「適性評価」では、自らの血縁、配偶者の血縁、同居人の調査に始まり、本人のプライバシーが根こそぎ調べられます。公務員だけでなく、民間企業や下請け企業で働く労働者、派遣労働者も含まれます。



強行採決は許されないと抗議に集まった人々たち。首相官邸前



法案作成過程まで全面黒塗りにされた資料を示し追及する赤嶺議員

声をあげよう

ゴリ押し採択ならう自民・公明 日増しに高まる反対世論

日本弁護士連合会、日本ペンクラブ、テレビのキャスター、出版人、演劇人、憲法・メディア法・刑事法・歴史学者など、これまでにない広範な人々が反対の声を上げ、日本新聞協会や日本雑誌協会、日本民間放送連盟も強い危惧を表明しています。どの世論調査でも、反対の声は急速に広がって半数を超え、今国会で成立させるべきではないという声は8割に上っています。



LINEで ツイッターで フェイスブックで